

階 段 ・ 廊 下

高齢者の家庭内事故のほとんどが階段での転落や廊下での転倒となっています。自分にあった安全な住まいで生活することが一番大切です。

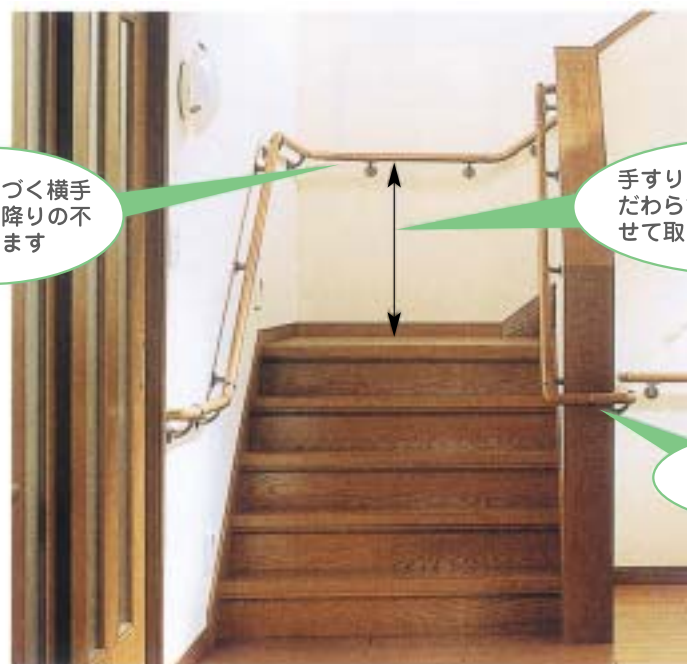
高齢者の生活空間は一般に1階が望ましいと言われていますが、住宅の環境や家族の生活状況によっては2階のほうが落ち着いた生活が出来る場合もあります。

階段は昼夜を問わず安全に、かつ出来るだけ容易に移動できるよう配慮することが重要です。

また、廊下は室内との温度差や出入り口の段差を極力少なくし、車椅子の移動を考えることが望まれます。

- 手すりは木製など静電気が起こりにくく暖かみのあるものを選ぶ。
- 階段と廊下の手すりを連続させるか、階段手すりの端に水平部分を設けると安心。
- 廊下や階段の床は滑りにくい材料で仕上げ、足元が暗くならないよう工夫。

理想的な手すりのつけ方



踊り場につづく横手すりが昇り降りの不安を解消します

手すりの高さは平均値にこだわらず、自分の体に合わせて取り付けましょう

連続した手すりが移動への安心感を与えます

階段手すり



上がりきったところで手すりが終わっているため不安があります

水平にのばせば前のめりもなく、転倒の危険が防げます

廊下の手すり



階段降り口の手すり



手すりを横たわらせるときの受け口

縦手すりの状態

アドバイス 廊下に姿見鏡があっても、手すりは連続させたいものです。

廊下足元灯



夜間：点灯時（明るさセンサーで作動）



昼間：消灯時

ポイント

階段の降り口に独自の可動手すりを取付けました。普段は縦手すりとして使用されていますが、夜間などは階段降り口に手すりを横たわらせて転落の不安を解消しています。

ポイント

廊下の足元灯は暗くなると作動するものがあり、常夜灯としてとても便利です。